

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102691		
法人名	四国産業株式会社		
事業所名	リーラの家“しこく”		
所在地	香川県高松市福岡町2丁目11番29号 (電話)087-826-8600		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価決定日	平成21年3月24日

## 【情報提供票より】(21年1月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	11月	10日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	10人	常勤	7人,	非常勤 3人, 常勤換算 8.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての1階～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000～60,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

### (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	0名	要介護2	2名			
要介護3	4名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	87歳	最低	79歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	クワヤ病院	三好歯科医院
---------	-------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リーラの“家しこく”は住宅街にあり、県立体育館・県立武道館などの公共施設が近くにあり環境に恵まれている。建物は、震度5～6に対応可能な木造2階建てである。玄関にスロープ、チャイムがある。室内も全てバリアフリー・床暖房・各居室に洗面台・洋式トイレ・電話配線・介護用ベッドが設置され家庭的雰囲気である。職員の「自分らしく生きる」について自己評価を○△で行い利用者のサービスの質の向上に努めている。職員間のチームワークもよく管理者は明るく、優しく何事にも前向きで積極的である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「いつまでも、あなたらしく、生きる楽しさ」の理念を念頭に、地域に密着したグループホームを目指し管理者・職員が共に改善課題に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者を中心にミーティングで話し合い、改善課題について取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催している。行事予定や報告、意見交換をし、サービスの質の向上に活かすよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱と用紙を用意している。また、面会時家族より直接要望を聞き取り、相談票に記録し管理者・職員で話し合い介護・運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。毎月の町内清掃や年末の防火訓練に職員が参加、夏まつりには利用者・家族と共に参加し交流に努めている。しかし、近隣とのつき合いが希薄なため、今後は、近隣の方がグループホームを訪ねていただけるようなつきあいの取り組みに期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社長・会長・管理者・職員が共に話し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。 「いつまでも、あなたらしく、生きるたのしさ」		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、玄関と居間(1階・2階)に掲げられている。管理者や職員は申し送り時、カンファレンス、月2回のミーティングで理念を復唱、共有し日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。毎月の町内清掃や年末の防火訓練に職員が参加、夏まつりには利用者・家族と共に参加し交流に努めている。しかし近隣とのつき合いについては、まだ希薄なところがみられる。	○	今後は自治会の行事などに参加し地域との交流に努めているが、近隣の方がグループホームを訪ねていただけるようなつきあいの取り組みも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価結果は、管理者を中心にミーティングで話し合い、改善課題について取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。行事予定や報告、意見交換をし、サービスの質の向上に活かすよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加し意見をいただいたり、また些細なことでも常に相談、報告し助言をいただくなど連携に努め、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については、その都度電話や面会時に家族に連絡・報告している。金銭面については、報告の時期が利用者によって異なっている。	○	金銭管理について、残金が少なくなると、家族に報告しているが、定期的な報告及び家族の意向、希望にそった報告への取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱と用紙を用意している。また、面会時家族より直接要望を聞き取り、相談票に記録し管理者・職員で話し合い介護・運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットであるので異動はないが、管理者の離職により管理者の変更、職員採用があったが、前管理者も非常勤で勤務しており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、段階に応じて順番に受講できる。内部研修については、必要度を考慮したり事業所の状況に合わせ優先順位を検討した上で研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会に参加し、同業者と交流しサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まると利用者・家族などを訪問したり、グループホームを見学していただくよう配慮している。入居後はレクリエーションを多くするなど場の雰囲気に徐々に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員は利用者の体験談を傾聴しコミュニケーションを図り喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として様々なことを教わったり共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常会話から思いや・希望・意向の把握に努め、一人ひとりの思いを書面(センター方式)に記載している。それをもとにミーティングやケアカンファレンスで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・部屋担当職員・計画作成担当職員が、文書でいただいた主治医の意見も加えて担当者会議で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間は6か月で設定し、モニタリングは3か月ごとに行っている。心身の状況に変化のあった時はその都度担当者会議で話し合い介護計画に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族から要望を聞き、定期的受診・美容院の介助・送迎など対応可能な範囲で支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向を大切に、かかりつけ医の受診にグループホームの看護師が付き添い、医師ともよい関係を築き適切な医療が受けられるよう支援している。また、ホームドクターは2週間に1回往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化・終末期について、利用者・家族と話し合い、方針を明確にして文章化され共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーが保てるよう、言葉かけや対応に配慮している。個人情報についても流出の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮し、日々その人らしい暮らしができるよう支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を活かしながら、食事の献立づくり、調理の下ごしらえ、食事・下膳を職員と共にし、食事を楽しむことのできる支援に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間帯は職員の勤務体制により決まっている。	○	利用者の入浴希望に沿えるような体制の取り組みに期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴などから得意なことを掘り起こしたり、趣味づくりの手助けをして、楽しみ・気晴らしの支援に努めている。	○	それぞれの利用者の異なる状況をふまえながら、一人ひとりに応じた役割づくりや楽しみ、気晴らしの支援により一層の取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブなどの機会あるごとに声をかけをし外出の支援に努めているが、外出が生活の中で日常的に行われるまでには至っていない。	○	天候・季節的なこともあるが、外気にふれる利点を考慮して日常的な外出支援について、より一層の取り組みに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、利用者の状況により、安全面を優先した時のみ家族の了解を得て施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回実施している。地域の防災訓練に職員が参加し、地域の協力が得られるよう努めている。	○	消防署との連携、地域住民との連携、夜間を想定した避難訓練など具体的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は個々にチェック記録し、栄養の確保・水分補給に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階リビングには、季節感のする大きな貼り絵・床暖房・テレビ・季節の果物・ソファなどがある。2階リビングは、テーブル・ソファがあり、利用者は自由に思い思いの所で過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台・洋式トイレ・電話の配線・介護用ベッド・整理タンス・机・椅子を整備している。家族の写真・馴染みの小物が飾られ、家庭的な雰囲気工夫している。		